

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：プレコンセプションケア，健康教育プログラム

プレコンセプションケア啓発のための健康教育プログラムの開発

看護学部 看護学科 准教授
名草 みどり NAGUSA Midori

研究の内容

日本では、女性の晩婚化や晩産化に伴い、不妊や初産年齢の高齢化による慢性疾患をもった女性の妊娠の増加や、女性のやせに起因する低出生体重児の増加といった問題があります。これらの問題を解決するためには、妊娠前から将来の妊娠のために健康状態を改善させるプレコンセプションケア（Preconception Care：PCC）以下PCCの啓発が必要ですが、現在、日本においてPCCの啓発は行き届いていません。そこで2019年、合併症のない成熟期女性労働者にPCC啓発のための健康教育プログラムを行いました。その結果、PCCの知識の向上は認められましたが、行動変容は一部に留まっています。その評価をふまえ、実施時期を成熟期女性が希望していた青年期とし、さらに行動変容を促すために、修正したリーフレットと動画を用いて健康教育プログラムを行い、現在、効果と課題を検討しています。



少人数での健康教育の様子



使用リーフレットのの一部

産学連携・社会連携へのアピールポイント

青年期・成熟期を対象とするプレコンセプションケア健康教育プログラムを、動画とリーフレットを用いて対面と遠隔でも提供できます。中学生・高校生に行われている「性に関する指導」や「生涯に通じる健康の知識」の指導に加え、妊娠前に適切な妊娠・出産に関する「プレコンセプションケア」の健康教育を提供することを目指しています。

研究者総覧（名草 みどり）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001238_ja.html

